

文芸コーナー

短歌

まなこ射るほどに眩しき朝の日を一万米上空に見し

大森 三ツ木絹江

来し方をゆるりと語る旧友とバスに揺らるる花めぐりの旅

小林 品村 葉子

畑土を寄せゆくわれにかたはらの菜の花びらの降るごとく散る

発作 腰川 昭子

用水の引きたる堰は門を閉ざし春のゆたかな水湛へたり

木刈 山本 清子

平成の大合併に印旛村なくなり今日より印西市民

平賀 岡崎 久子

俳句

五十嵐正雄選

しみじみと遺句集を読む螢の夜

内野 葛西 節子

巢燕に活気あふるる港町

岩戸 荒木 コト

御仏の視野に緋牡丹白牡丹

小林浅間 樫本聖遊子

英国は知らねど薔薇のエリザベス

原山 片岡 芳子

敷椿落ちても炎ゆる結縁寺

木刈 蘭田 篤生

短歌・俳句をお寄せください。一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り(必着)です。投稿は、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。

ご存じですが「EM菌」

ほっとレポート

「EM菌」はEffective Micro-organisms(有用微生物群)の頭文字を冠した菌です。

EM菌は、「善玉菌」に近い存在で、有害物質を含む有機物を発酵させ、わたしたち人間に役に立つ物質を生成し、同時に環境を浄化する力も持っていると考えられます。この菌は、20年近く前に琉球大学の比嘉教授によって開発され、主に農業などで土壌改良を目的に研究されてきました。環境問題に注目が集まる昨今、このEM菌を活用し、活

動を行ういくつかの団体が市内にあります。今回、その中の二つの団体に、主な活動について、お話を伺いました。

【印旛EMの会】

印旛地区にある「吉高の大桜」の近くでは、ボランティア団体「印旛EMの会」のみなさんが、EM菌を利用したEM活性液を毎月配布(有償)しています。

会の代表である須藤さんは、自分も農業でEM活性液を活用。「元々は吉高の大桜を元気にするために、使い始めました」と語りました。



茶色い液体がEM活性液。希釈すると掃除・洗濯にも効果があるとされています



EMボカシの仕込みをする福祉作業所コスモスのみなさん(左)とEMボカシ(上)

利用者からは「家庭菜園で使っているが、野菜の出来が違う」との声も。活性液は、毎月第2・4月曜日に配布

【福祉作業所コスモス】(有償)を行っているそうなので、興味のある人は、訪れてみてはいかがでしょうか。印旛EMの会・須藤(☎1570)。

総合福祉センター内にある福祉作業所コスモスでも、EM菌を使用した「EMボカシ」の製造を行っています。EM液・もみ殻・黒糖みつ・米ぬかを混ぜ合わせて、EM菌で発酵させ、天日干ししたものがEMボカシです。これを生ごみと混ぜてさらに発酵させると生ごみ堆肥が完成。花壇や家庭菜園で利用すると効果があるそうです。業務主任の鈴木氏によると「月に2度、手作業で仕込みをしています。利用者の反応も良好ですよ」と語りました。ごみを利用することで、環境にも優しいEMボカシ。市内の一部店舗で手に入るそうです。

リサイクル情報広場 掲載情報は6月3日現在 圃クリーン推進課クリーン推進班(☎内線382)

- ゆずりませ情報(有料の物は希望価格) ▲机(小学生~大人用) ▲食卓テーブル(13年使用) ▲ソファ(5人用) ▲和洋兼用タンス(13年使用) ▲洋服タンス(13年使用) ▲本棚(13年使用) ▲仏壇(13年使用) ▲雑飾り(七段飾り) ▲女児用服(小学生用) ▲調理器具(なべ・やかんなど) ▲食器類(13年使用) ▲食器棚(13年使用) ▲丸テーブル(こげ茶・ガラス付き)。

- さがしています情報 ▲秀明八千代高校男子制服・体操服・コート・セーター・バックなど(170cm) ▲千葉商科大学付属高校男子制服・体操服・コート・セーター・バックなど(170cm) ▲きかり幼稚園用制服(LまたはLLサイズ) ▲しおん幼稚園女児制服・体操服。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバックを持参しましょう。



印西市役所

1市2村の合併により、新しい印西市が誕生。市民のみなさんへ、市内の情報をより詳しくお知らせしていくために、今月からは、市内にある

さまざまな公共施設を紹介する「施設がいど」が始まります。第1回目は、わたしたちにとってなじみ深い「印西市役所」を紹介していきます。市役所庁舎は、JR木下駅南口から、徒歩15分ほどの場所にあります。現在の庁舎は、昭和51年に完成しました。鉄筋コンクリート五階建てで、住民記録などの窓口のほか、総務、福祉、環境、財政、建設、議会などの部署がそろい、市民のみなさんからの相談や申請に職員が対応しています。



印西市役所の庁舎外観



ロビーには市の名産品の展示物も

市民の相談にも幅広く対応



答えは「(株)日本デキシー千葉工場」。木下駅からも見える紙コップ型の貯水タンクがヒントでした(右は現在の写真)。思い出写真館もこれが最後。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました